



ひとりだち

可児市立西可児中学校

校報第1号

令和5年4月7日



「 さあ行くんだ その顔を上げて ♪ 」

校長 吉田竹虎

1979年、4月。私が西可児中学校2年4組の生徒だった時、『**銀河鉄道999**』に夢中でした。今年2月に亡くなられた漫画家松本零士さんの世界観が大好きでした。

舞台は未来の世界。機械化人に母親を殺された主人公の星野鉄郎は、機械の身体を無償で得られる星を目指し、メーテルと共に銀河超特急999号に乗り込む。数々の出会いと別れ、冒険や試練を乗り越え、長い旅の末に目的の星に到着した鉄郎がくださった結論とは、、、

壮大な宇宙観、世界観。そして、人生観。「生きるとは何か」という根源的な問いを投げかけられているような気持ちでした。

松本さんは生前、「列車は人生そのもの。終着駅は見えない。」と語ってみえました。

2023年、4月。今年は長い期間桜を眺めることができた気がします。そして、桜前線の通過も終わり、春の花が咲き誇っています。

「咲」という漢字は「口」に「笑」で口を細めて笑う様子を指しているそうです。

確かに、満開の花を見ると、自然と顔がほころんできます。

コロナ禍によるマスク着用ルールも変わってきました。学校中の誰からも、温かな微笑みが溢れ出すよう、コロナ禍を経験したからこそ、**誰もが幸せな気持ちになる「令和の新しい学校像」**を模索していきます。

「さあ行くんだ その顔を上げて 新しい風に心を洗おう 古い夢は置いて行くがいい ふたたび始まるドラマのために、、、」ゴダイゴが唄った999の主題歌は今でも新鮮に心に響きます。

令和5年度入学式・始業式を終え、西可児中生370人。 370人それぞれの銀河鉄道が汽笛を上げました。新しい風が吹き、一人一人の新しいドラマ(旅)が幕を開けます。

「青春」という旅の中では、色々なことが起こるに決まっています。

努力しても成果が上がらないこともあるでしょう。苦しいことやつらいこともあるでしょう。「新しい自分になりたい」と弱気になることもあるでしょう。

しかし、つまずく事なんて当たり前です。

「一度も失敗しない事」なんて、何の自慢にもなりません。7回失敗したって、8回立ち上げればいいのです。それが素晴らしいことなのです。生徒達には、決してあきらめない強い気持ちをもっとほしいと願っています。

西可児中の職員は、メーテルや車掌さんのように責任をもって見守ります。

中学校時代、人生の中の「思春期」という最も多感な時期を一緒に過ごせることを心から嬉しく思います。全員の口元と心に「笑顔の花が咲き誇るように」職員一同精一杯取り組みます。

今年度もどうぞよろしくお願ひ致します。

